



第2章 歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

井上, 舞 ; 奥村, 弘 ; 木村, 修二 ; 加藤, 明恵 ; 市澤, 哲 ; 松本, 充弘 ; 室山, 京子 ; 松下, 正和

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 19 (2020 (令和2) 年度事業報告書) :26-42

(Issue Date)

2021-03-22

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013429>



第2章

歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

兵庫県文化遺産防災研修会

兵庫県文化財防災研修会は、自然災害から地域の文化財等を守るため、兵庫県内の文化財担当職員や、博物館・資料館学芸員らが防災対策を話し合い、大規模災害発生時の相互支援体制の構築に向けた情報共有の場とするために企画されたものである。2017年度にはキックオフ集会、第1回研修会が開催され、2018年度の準備期間を経て、2019年度は兵庫県下各地をまわり、5回の研修会を開催し、兵庫県下ほぼ全ての市町からの参加を得た。本年度も複数地域での開催を予定していたが、コロナ禍のため、中播磨地域1箇所での開催となった。

本年度の研修会は、9月7日（月）に、福崎町保健センターにおいて開催された。参加者は中播磨地域の神河町・市川町・福崎町・姫路市の文化財担当者等、計13名であった。また、今回は2019年度研修会のアンケート結果をもとに、より地域の実態に即した内容とすべく、講義・ワークショップの内容を変更した。講義は佐用町教育委員会の藤木透氏に依頼し、2009年の佐用町水害の経験とそこから得られた知見をお話いただいた。また、2つのワークショップを行った。ひとつは松下正和（神戸大学地域連携推進室）による、水損史料の応急処置に関するもので、コーヒー豆の粉末で汚損した史料のサンプルを用いて、応急処置の方法をレクチャーした。もうひとつは吉

川圭太（人文学研究科）によるシミュレーションで、福崎町より提供された災害情報をもとに、3パターンの災害を想定し、各グループで被災資料への対応を考えてもらった。

最後に行われた意見交換会や、アンケート結果では、「より資料レスキューの具体的な事例をもっと知りたい」「日ごろの準備の重要性を認識した」等の意見・感想があった。

次年度以降についても、これまでの研修会の反省点や、アンケートから得られた要望をもとに、内容の精査を行い、継続的に研修会を開催していく予定である。

〈令和2年度兵庫県文化遺産防災研修会〉

日時 令和2年9月7日（月）13:00～17:00

会場 福崎町保健センター（神崎郡福崎町西田原1397-1）

プログラム

13:00～13:10 開会挨拶（奥村弘／神戸大学大学院人文学研究科）

13:10～14:00 講義「2009年佐用町大水害時の水損文化財レスキュー」（藤木透／佐用町教育委員会）

14:10～15:10 ワークショップ①「水損史料の応急処置ワークショップ」（松下正和／神戸大学地域連携推進室）

15:10～15:30 休憩

15:30～16:50 ワークショップ②「災害時初期対応シミュレーション」（吉川圭太／神戸大学大学院人文学研究科）

16:50～17:00 閉会挨拶（甲斐昭光／兵庫県教育委員会）

(文責・奥村弘)

主催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター・兵庫県教育委員会

協力：歴史資料ネットワーク、科学研究費特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(研究代表者:奥村弘)研究グループ、大学共同利用機関法人人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」

(文責・井上舞)



兵庫県地域創成局地域遺産課との連携

兵庫県は、2017年度に地域遺産活用方策検討委員会設置要綱を策定し、県内の地域遺産のデータベース化を行うとともに、その活用方針を検討し、県民のふるさと意識の醸成と地域活性化を図ることを目的として、地域遺産活用方策委員会を設置した。同会の委員長に奥村が就任した。

本年度は、県政資料館（仮称）基本計画策定委員会会長として、奥村が同委員会に参加した。また、兵庫津ミュージアム（仮称）指定管理者候補者選定委員会として、奥村が同会議に参加し、これまで地域連携センターが展開してきた兵庫津についての歴史研究と地域歴史遺産の保存と活用についての実践的研究の成果を反映させた。

兵庫県教育委員会文化財課との連携

兵庫県文化財課と連携して、本年度は9月7日（土）に中播磨地域を対象に、文化財防災研修会を開催した（詳細：第2章「兵庫県文化遺産防災研修会」）。

また、文化財保護法の改定に伴う兵庫県文化財保存活用大綱作成のための兵庫県文化財保存活用大綱策定協議会委員として奥村が参加。県の大綱にこれまで地域連携センターが展開してきた地域歴史遺産の保存と活用についてのあり方についての実践的研究の成果を反映させた。

(文責・奥村弘)

神戸市との連携事業

1. 神戸市文書館との連携事業

神戸市文書館との間で、2006年度から共同研究「歴史資料の公開に関する研究」を継続して行っている。今年度の事業内容は、①神戸市文書館に収集・所蔵される歴史史料の整理、調査、さらに公開、活用のための土台作り、②神戸市文書館の来館者に対するレファレンスサービス（特に古文書の解読）であった。

(文責・奥村弘)

包括協定にもとづく灘区との連携事業

本年度は灘区と連携した活動はなかったが、別

項で述べられる大学発アーバンイノベーション神戸の事業展開において、本事業で得られた知見や成果が一部活かされている。

なお、2021年2月現在の『篠原の昔と今』(2005年度発行)、『水道筋周辺地域のむかし』(2006年度)の残部は共に約200部となっている。今年度も散発的ながら学外からの送付依頼があった。

(文責・木村修二)

神戸市を中心とする文献資料所在確認調査

1. 神戸市を中心とする文献資料所在確認調査

今年度本事業に関連する新規および継続中の調査はなかったが、別項で述べられる大学発アーバンイノベーション神戸の事業展開において、本事業で得られた知見や成果が一部活かされている。

(文責 木村修二)

2. 神戸大学附属図書館との連携

昨年度いっぱいまで附属図書館所蔵郷土文書類の整理が概ね完了したため、次の展開として今年度は「神戸開港文書」の画像撮影とデジタルアーカイブでの公開が目指された。人文学研究科院生の下箱石響君に作業に当たってもらった。当初新型コロナウイルス感染対策のため学生の大学への立ち入りが制限されるなどの事情から当初の予定よりも大幅に遅れたが、制限が緩められた夏期休暇の期間に作業に当たってもらうことができた。作業は非接触スキャナーによる取り込みで進められた。デジタル化された画像は、附属図書館によってデジタルアーカイブに追加公開された。

今後も図書館側と協議を重ねながら本事業を進めてゆきたい。

(文責・木村修二)

財団法人住吉学園との連携事業

2018年4月1日に発足した住吉歴史資料調査会(神戸市東灘区・住吉歴史資料館内)との連携事業は3年目を迎え、本年度も同会の調査活動に協力した。

調査活動においては、主に住吉村横田家文書(本住吉神社所蔵)および摂津国兔原郡住吉村文書(大阪歴史博物館所蔵)の翻刻を行ったほか、住吉良運商社文書(神戸市立博物館所蔵)の調査・翻刻を新たに進めた。

同会会員・菟原茶道会・地域住民から参加者を募り古文書勉強会を継続して行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年8月まで休止し、2020年9月24日、10月29日、11月26日、12月24日、2021年1月28日の5回を開催した。

また、神戸市による「大学発アーバンイノベーション神戸」助成研究「灘の酒造家吉田家の文化・学術活動の研究」(研究代表者・加藤明恵)では、住吉歴史資料調査会の協力を受けて研究を進めている。

(文責・加藤明恵)

大学協定にもとづく小野市との連携事業

本年度は「小野藩家老家伊藤文書を用いた明治初期小野市域地租改正実施過程の歴史研究」という課題名による連携事業に取り組んだ。

2019年度に小野市立好古館において津熊友輔氏・出水清之助氏が調査を行った小野藩家老伊藤家文書の地租改正関係史料について、翻刻・分析を進めている。

(文責・加藤明恵)

連携協定にもとづく朝来市との連携事業

2005年3月、朝来郡生野町との連携協定が締結された。同年4月の市町村合併により、協定は朝来市に引き継がれている。以降、生野町域を中心に朝来市域所在史料の保全・活用に取り組んでいる。今年度は次のような事業に取り組んだ。

1. 民間所在資料の調査・整理

(1) 石川家文書整理会の開催

石川家文書は、朝来市生野町に所在する石川家に伝えられてきた、近世～近代にかけての膨大な資料群である。神戸大学では2008年より同家文書の調査に取り組んでいる。2015年より、新出資料の整理を進めるべく、地域住民らの参加を募り、毎月第2・第4火曜日に石川家文書整理会を開催している。今年度は、緊急事態宣言の発出にともない、会場としている生野書院が4月9日から5月25日まで臨時休館となったため、年度初旬は整理会を実施することができなかった。その後、6月後半より感染防止対策をとりながら整理会を再開したが、2021年1月より再度休止を余儀なくされた。(3月より再開予定)

昨年度中旬より、外蔵から発見された古文書群の目録作成を行っている。次年度以降、整理が完了した分から順次、目録を刊行していく予定である。

なお昨年度、取り組んでいた石川家の蔵書整理が完了したことにもない、朝来市埋蔵文化財センター「古代あさご館」・生野史料館「生野書院」巡回展、神戸大学地域連携事業成果展「蔵書からみる地域の歴史—石川家と近世生野のくらし—」が開催された。同展は巡回展で2020年4月5日まで朝来市埋蔵文化財センターで、その後4月11日より生野書院で開催される予定であったが、上記のように生野書院が臨時休館となったため、会期を改め、5月26日から7月26日まで

開催された。



(2) 多々良木歴史研究会への協力

多々良木歴史研究会は、2017年度に朝来市多々良木地区の住民らにより結成された。以降、同地区の区有文書の整理に取り組み、2019年度には成果展示会を開催した。その後、元地域住民よりは成果展示会を開催した。その後、元地域住民より、自宅にあったという古文書の寄贈を受け、現在はこれの目録作成・写真撮影に取り組んでいる。本年度はコロナ禍のため、7月・9月・10月・11月・12月のみの開催となった。次年度以降も引き続き整理作業に取り組んでいきたい。

(3) 山田家文書の調査・整理

本年度も引き続き、山田家文書の目録作成および写真撮影に取り組んだ。

2. 生野書院企画展への協力

生野書院では、毎年秋に企画展を開催している。2019年度、地域連携センター協力事業として、企画展「生野県150年」(2020年1月25日～3月29日)が開催された。また、3月15日には、津熊友輔(人文学研究科博士課程後期課程)が「県庁所在地 生野の明治維新」、石橋知之(同)が「生野代官所をとりまく生野の人々—江戸時代の生野の町—」と題した記念講演を行う

予定であったが、コロナ禍のため延期となっていた。この講演を、2021年1月16日に実施すべく準備を進めていたが、1月14日からの緊急事態宣言発出を受け、再度延期となった。今後の見通しが立たないこともあり、リアルタイムでの講演は断念し、録画した講演を配信する形を取った。講演は、2月18日（水）から3月7日（日）まで朝来市の公式 YouTube チャンネル (AsagoCity_Official) にて配信される予定である。

(文責・井上舞)

丹波市との連携事業

神戸大学大学院人文学研究科と丹波市は2007年度に協定を締結した。以降、市域所在資料について調査・保全・活用に取り組んでいる。本年度は、次のような事業に取り組んだ。

1. 歴史講座および古文書相談会の開催

例年開催している歴史講座を、本年度も開催した。本年度は「丹波の歴史を知る・つなぐ」をテーマとし、以下の日程で開催した。

本年度はコロナ禍のため、参加人数を制限し、かつ事前予約制とした。当日も受付において検温・入室前の消毒をお願いするなど、感染症対策に十分留意しながらの開催となった。また、当日の講演を録画し、配信資料とともに丹波市のHPにて公開した。

歴史講座の後には、こちらも恒例の古文書相談会を開催した。本年度の相談は3件であった。

第1回：8月1日（土）山内順子（丹波市文化財保護審議会委員）「140年前の精進料理献立—法楽寺文書を中心に—」、於ライフピアいちじま

第2回：9月26日（土）松下正和（神戸大学地域連携推進室）「学生の手紙にしたため

られた明治の歴史」、於春日住民センター
第3回：11月21日（土）井上舞（神戸大学大学院人文学研究科特命助教）「地域資料から見る寺社の勧進活動」、於水上住民センター

第4回：12月12日（土）加藤明恵（神戸大学大学院人文学研究科特命助教）「柏原藩政日記を読む」、於柏原住民センター

第5回：2月6日（土）出水清之助（神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程）、平岩泰典（丹波市文化財保護審議会委員）「地域史料から見る江戸時代の山論と人々」、於青垣住民センター

第6回：3月13日（土）木村修二（神戸大学大学院人文学研究科特命講師）「絵図からみる山南の歴史」、於山南住民センター
(文責・井上舞)

令和2年度連続講座
参加無料・事前予約制

見る・知る・学ぶ
丹波の歴史

丹波市と神戸大学人文学研究科は、平成19年度から地域連携協定をむすび、地域に残る古文書を中心とした歴史資料の調査研究を行っています。本講座では、これらの調査成果を市民の皆様にお知らせします。調査した資料は、丹波市で地蔵おもちの古文書などについて「発掘」している。「町づくりに利用したい」といった相談にもおこなえます。

第1回 8月1日(土) 13:30 ~ 15:00 140年前の精進料理献立 —法楽寺文書を中心に— 山内順子氏(丹波市文化財保護審議会委員) 於ライフピアいちじま(定員50名)	第2回 9月26日(土) 13:30 ~ 15:00 学生の手紙にしたためられた 明治の歴史 松下正和氏(神戸大学地域連携推進室) 於春日住民センター(定員35名)
第3回 11月21日(土) 13:30 ~ 15:00 地域資料から見る 寺社の勧進活動(仮) 井上舞氏(神戸大学大学院人文学研究科) 於水上住民センター(定員50名)	第4回 12月12日(土) 13:30 ~ 15:00 柏原藩政日記を読む(仮) 加藤明恵氏(神戸大学大学院人文学研究科) 於柏原住民センター(定員40名)
第5回 2月6日(土) 13:00 ~ 15:00 地域史料から見る 江戸時代の山論と人々 出水清之助氏(神戸大学大学院生) 平岩泰典氏(丹波市文化財保護審議会委員) 於青垣住民センター(定員25名)	第6回 3月6日(土) 13:30 ~ 15:00 絵図からみる山南の歴史(仮) 木村修二氏(神戸大学大学院人文学研究科) 於山南住民センター(定員15名)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各講座に定員を設けています。申し込み方法は裏面をご覧ください。

2. 丹波市内古文書調査

本年度は下記の通り、市内歴史史料調査を実施した。また、山南町で発見された高札について、撮影画像をもとに学内調査を行った。

① 7月31日・8月1日：春日町U家文書調査

- ② 8月1日：青垣町東芦田細見家文書調査
- ③ 9月2日：丹波市立柏原歴史民俗資料館所蔵・寄託文書調査
- ④ 9月12日・13日：春日町棚原区有文書調査
- ⑤ 9月25日・26日：春日町U家文書調査
- ⑥ 10月6日：丹波市立柏原歴史民俗資料館寄託文書調査
- ⑦ 1月12日・13日：春日町棚原・松森・坂地区調査

(文責・井上舞)

3. 絵図のデジタルデータ化

丹波市域には多くの絵図が残されているが、なかには大型のものや傷みの激しいものがあり、現物を用いた活用が難しい場合がある。デジタルデータを活用すれば、原資料を損なわず、かつ広く資料の存在を知ってもらうことが可能である。2019年度より、市域に残る絵図類のデジタルデータ化に取り組んでおり、同年度は春日町棚原地区と、山南町O家所蔵の谷川地区に関する絵図のデジタルデータ化を行った。本年度は、春日町松森地区が所蔵する「天満神社縁起」と、同町坂地区が所蔵する山論裁許絵図のデジタルデータ化を行った。

これらのデータのうち、山南町O家所蔵の谷川地区の絵図は、歴史講座第6回で活用される予定である。また「天満神社縁起」のデータは、九州国立博物館特集展示「天神縁起の世界」(開催期間令和3年2月2日～3月28日)の図録に掲載するために、九州国立博物館に提供された。坂地区の絵図についても、次年度報告会を行う予定である。

(文責・井上舞)

4. 氷上古文書倶楽部への協力

本年度はコロナ禍のため、活動は休止中である。

(文責・加藤明恵)

5. 丹波古文書倶楽部への協力

本年度も毎月第2土曜日に丹波市住民センター

(柏原・春日・山南) および丹波の森公園を会場に古文書解読の例会が開催され、木村がチューターを務めた(8月は夏期休会)。なお、今年度は新型コロナ感染拡大の影響をうけ、2020年3月、4月、5月、12月、2021年1月の例会が中止となった(2月は未定)。

(文責・木村修二)

連携協定にもとづく加西市との共同事業

加西市と神戸大学との連携協定は、2009年5月16日に締結された。これにもとづき、今年度は次のような事業に取り組んだ。

1. 加西市戦争遺産調査報告書の作成

2019年度より、青野原俘虜収容所および鶉野飛行場跡に関する調査を行ってきた。本年度は、これらの成果について、報告書『加西市近代遺産調査報告書1 青野原俘虜収容所I 鶉野飛行場跡I -令和元・2年度戦争遺跡総合調査-』にまとめることになった。報告書は、大津留厚(神戸大学名誉教授)が青野原俘虜収容所を、佐々木和子(人文学研究科学術研究員)が鶉野飛行場に関する概論を担当した。また、尾瀬耕司氏(神戸建築文化財研究所)による収容所建造物に関する調査報告、本年度実施した鶉野飛行場跡の滑走路調査・レーザー測量調査の成果も収録した。

2. 鶉野飛行場跡関連調査・聞き取り調査

1. とも関わって、本年度は鶉野飛行場跡関連の調査を随時行った。

- 8月21日 鶉野飛行場跡滑走路調査
- 1月21日 鶉野飛行場跡関連資料調査
- 2月23日 市外在住の加西市出身者への聞き取り調査

また、鶉野未来課との連携事業として、鶉野飛行場跡の滑走路断面図調査を実施したほか、佐々木和子・井上舞が、3月2日に実施された戦争体

験者映像撮影と、3月4日に実施された加西市地域活性化拠点施設展示に関する意見交換会に出席した。

3. その他

井上が、加西市文化財審議委員として、2021年1月22日に開催された、令和3年度第1回文化財審議委員会に出席した。

(文責・井上舞)

尼崎市における連携事業

本年度より開館した尼崎市立歴史博物館の文書館部門の専門委員を務め、同館の運営について助言を行った。

(文責・市澤哲)

三木市における連携事業

1. 三木市史編さん支援事業

2016年度より三木市教育委員会教育企画部文化スポーツ振興課市史編さんグループで進められてきた新三木市史編さん事業について、今年度も「受託型協力研究」として特命教員を派遣し、木村修二が担当した。

編さん事業全体としては、まず特筆すべきは、昨年度末の3月31日付で新三木市史の第1回配本となる地域編『口吉川の歴史』が刊行されたことだろう。しかし、本年度に入ると、新型コロナ感染拡大の影響が大きく関係し、通史編のうち資料編の刊行が迫る古代・中世の両部会のうちとくに中世史部会において、史料のカード化作業を学生アルバイト雇用で進める予定が、大学での作業が学生の立ち入り禁止措置などの事業からほとん

ど進められなかったこと、文化遺産部会においても建築など現地調査が大幅に遅れることが必至となったこと、また地域編各部会（既に立ち上がった部会のみ）についても、緊急事態宣言下での現地調査などを自粛せざるをえなくなるなど、事業推進に大きな停滞をもたらした。

編さん室の体制は、市史編さん学芸員として2名加わった（合計3名）ことで、調査および編さん体制への増強とはなったが、編さん委員会が強く要望している市職員の増員はあいかわらずなされず、新たな地域編部会立ち上げ（三木部会）などもあいまって事務局各員の作業負担が減ることはなく、むしろ増加している状況である。

以上のような各部会から刊行計画の変更が必要との提起がなされ、おもに通史編の各部会の状況を鑑みかたちで、通史編資料編の刊行年をそれぞれ1年後にずらすという改変がなされることになった。なお、事業全体の完了年（2029年度）に変更はされないとの市当局の方針により、本編の刊行は計画通り進めることが確認された。なお、地域編についても編さん委員会としては、計画を大幅に変更すべきことを提起したものの、市当局から2026年度地域編刊行終了に変更なしとの決定がなされた。

なお、市史編さん事業全体の方針を確認・決定する市史編さん委員会は、新型コロナの影響もあって下記のように本稿執筆までに1回しか開催されなかった（年度末に本年度第2回目を開催予定）。ここでは、前述のように刊行計画の見直しについて、編さん委員会として市当局に提起することを確認している。

また、市史編さん委員会に先立ち通史編専門委員会も1回開催された。こちらは、専門委員会としてははじめてzoomによるリモート会議が実施された。通史編の各部会の調査活動方針の確認、および実施状況の報告、予算執行状況などが協議されたが、前述のように新型コロナ感染拡大の影響による作業の遅れから刊行計画の見直しの声が各部会から上がった。

地域編専門委員会は、本稿執筆までに開催はな

されなかったが、3月上旬に開催が予定されている。

本稿執筆時点では、第2回配本となる地域編『志染の歴史』の編さんが佳境を迎えており、予定通り進行すれば、今年度末に刊行予定である。

① 市史編さん委員会

- 2020年12月14日 於市史編さん室
- 2021年3月30日予定 於市史編さん室

② 通史編専門委員会

- 2020年11月12日 zoomによるオンライン会議
- 第2回未定

③ 地域編専門委員会

- 第1回未定

三木市史編さん事業の調査研究活動については、各専門委員会に配置された部会単位で行われる。通史編専門部会については古代、中世、近世、近代、現代、文化遺産、考古、自然環境の8部会で構成され、一部を除き各部会とも概ね2回開催された協議では、今後の調査方針等について議論が交わされた。通史編各部会の協議開催状況は下記の通りである。

- 6月28日 第1回古代史部会 zoomによるオンライン協議
- 7月9日 第1回自然環境部会 於市史編さん室
- 9月28日 第1回中世史部会 zoomによるオンライン協議
- 10月1日 第2回古代史部会 zoomによるオンライン協議
- 10月22日 第1回文化遺産部会 zoomによるオンライン協議
- 12月17日 第3回古代史部会 zoomによるオンライン協議
- 12月20日 第2回中世史部会 於市史編さん室
- 2021年2月18日予定 第4回古代史部会
- 2021年3月16日予定 第3回中世史部会

このほか、2021年に1月4日に近代史部会が

内々での打ち合わせをオンラインで行った由だが、編さん室が参加していないので、部会開催回数に数えていない。また、近代史部会については、今年度より黒田精右衛門家文書の未整理近代資料の調査に関与することになり、2021年2月時点で1回の調査を実施している。今後も当面2ヶ月に1回程度で実施を予定している。

次に、地域編については、地域住民を中心とする地域部会によって担われているが、昨年度末に『口吉川の歴史』の刊行がなされたため、口吉川部会は昨年度3月をもって解散となった。引続き志染部会、吉川部会、緑が丘部会の活動が進められ、今年度より新たに三木部会が立ち上がった。また今年度中に青山部会が発足予定となっている。各地域部会では地域編編さんに向けて、月1回程度の協議のほか、地域内の史料や文化遺産の調査に取り組んだが、すでにみているように今年度は新型コロナ感染拡大に影響を受け、4月～6月地域部会協議が中止され、2021年1月以降も刊行が迫る志染部会を除いて協議が中止となっている。今年度の協議については下記の通りである。

① 口吉川部会（※昨年度報告書執筆以降分）

- 2020年2月27日 第36回
- ※2020年3月協議中止、3月31日付をもって解散。

② 志染部会（※昨年度報告書執筆以降分）

- 2020年2月20日 第26回
- ※3月～5月協議中止
- 6月18日 第27回
- 7月16日 第28回
- 8月20日 第29回
- 9月17日 第30回
- 10月15日 第31回
- 11月19日 第32回
- 12月17日 第33回
- 2021年1月21日 第34回
- ※2月18日第35回予定、3月協議をもって解散予定。

志染部会は、今年度末に地域編『志染の歴史』

の発行を控えており、目下急ピッチで準備を進めている。

③ 吉川部会（※昨年度報告書執筆以降分）

- 2020年2月28日 第15回

※3月～6月協議中止

- 7月31日 第16回
- 8月28日 第17回
- 9月25日 第18回
- 10月30日 第19回
- 11月19日 第20回
- 12月18日 第21回

※2021年1月協議中止、2月未定

吉川部会では、2020年11月19日に、昭和30年以前の旧村（北谷村、中吉川村、奥吉川村）時代の思い出を女性に語ってもらう座談会を、吉川健康福祉センターで開催した。各旧村地区ごとに4～6名づつ集まっていたいただき、活発に語っていただいた。

④ 緑が丘部会（※昨年度報告書執筆以降分）

- 2020年2月26日 第14回

※3月～6月協議中止

- 7月22日 第15回
- 8月26日 第16回
- 9月23日 第17回
- 10月21日 第18回
- 11月18日 第19回
- 12月9日 第20回

※2021年1月協議中止、2月未定

⑤ 三木部会

- 8月29日 第1回
- 9月25日 第2回
- 10月23日 第3回
- 11月27日 第4回
- 12月18日 第5回

※2021年1月協議中止、2月未定

三木部会は、岩崎良則氏を部会長に計5名で構成。

何度も言うように新型コロナ感染拡大の影響により著しく活動が制限されたが、なんとか今年度

も市史編さん学芸員を中心に、編さん補助員（アルバイト）や「市史編さんボランティア」の協力のもと、市内自治会や旧家における史料調査・整理を実施した（詳細略）。また、市史編さん事業の成果の一端を示すため、例年三木市立みき歴史資料館の企画展として「地域の史料たち」と題する展示が企画されてきたが、今年度は諸事情により計画されなかった。

また、例年旧玉置家住宅において神戸大学古文書合宿が開催されてきたが、今年度はやはりコロナの影響により三木市での開催は断念し、神戸大学で古文書整理解読作業を行うことになった。期間は2021年2月2日・3日で、三木市吉川町渡瀬・石田家文書の一部を提供した。2月24日には担当の市沢哲教授および井上舞特命助教が来室し、テキストの確認を行った。学生が三木市にやってきて地元の方々と交流しながらの合宿は実現しなかったが、三木市域の文書群を提供する形でなんとか大学との直接的な交流を維持することができたと考える。

市史編さん事業に関わる今年度の逐次刊行物としては、『市史編さんだより』第8号（2020年3月31日付発行）、第9号（2020年9月30日付発行）、および市史編さん室紀要『市史研究みき』第5号（8月30日付発行）を発行した。なお、『市史編さんだより』については、年度内に第10号の発行を目指している。

2. 商工観光課との連携事業

2010年度より文化庁の地域伝統文化総合活性化事業（「三木市文化遺産総合活用活性化事業」）として、市民グループ「旧玉置家住宅文書保存会」による襖下張り文書保存活動が行われたが、事業終了後も市民グループ主体の活動が維持され、三木市商工観光課とともに同会の活動支援を実施している。

3. 三木市立みき歴史資料館

三木市立みき歴史資料館の事業について、館長の諮問機関である「みき歴史資料館協議会」の委

員（会長）として参画し、同館の運営等に関わる助言を行った。

今年度は、10月8日に第1回協議会が開催されており、3月には今年度第2回の協議が予定されている。

（文責・木村修二）

三田市との連携事業

今年度も「旧三田藩主九鬼家資料の総合調査」という課題名で、近世初期鳥羽藩時代の九鬼長門守書状（卷子装・2巻）の調査を中心に行った。今年度は、目録作成、史料翻刻を進めている。

（文責・加藤明恵）

丹波篠山市との連携事業

1. 「丹波篠山市史編さん」事業への協力

丹波篠山市では、合併前の旧町村において町村史が編纂されてきたものの、記述内容が町村制発足以降の行政史に留まっているものが多く、唯一通史的な叙述スタイルをとった『丹南町史』にも史料編が存在しないなどの問題点があった。そこで、2028年の市制施行30年を目標に、丹波篠山市史の編纂が目指されることとなった。

初年度にあたる2019年度は、市史編纂の準備期間として中央図書館に市史編纂業務を委ね（館長が市史編纂担当を兼務）、人文学研究科教授の奥村弘がこれを助言・指導するという形をとった。また、学術研究員（松本）を1名派遣して、市史編纂の基本方針や刊行スケジュールを作成した。

2年目にあたる2020年度は、新型コロナウイルス禍により本格的な始動が立ち遅れたものの、

4月以来、丹波篠山市長の酒井隆明氏を交えた意見交換会（4/17）や神戸大学内での調整会議（6/15）などを経て、2020年8月8日（土）に第1回市史編さん委員会が開かれた。また、市史編纂室専属の係長として成田雅俊氏が着任され、編纂事業の実務や大学側へのこまめな連絡を担ってくださっている。9月からは、人文学研究科の松本が特命助教として事業に参画することとなった。さらに10月からは、臨時職員として細見薫氏が着任され、歴史資料の整理や目録作成を担っていただいている。

9月以降の作業としては、市史編纂事業の基本方針や、「地域編」の方針についての協議を進めるとともに、「樋口家文書」などの史料整理が中心となった。また、市内の史料所蔵者や地域史研究者からの問い合わせが市史編纂室へ寄せられるようになり、寄贈や借用につながった史料群もあった。また、11月15日（日）には第2回市史編さん委員会と第1回専門委員会会議が開催され、基本方針や刊行計画などについて議論された。

新型コロナウイルス感染症の第3波拡大を受け、12月上旬からは作業形態が在宅中心となるなど、少なからぬ影響を受けているものの、次年度は市内外の史料所在調査に加え、市民ボランティアと連携した市史編纂事業のあり方などについて検討を進めていく予定である。

2. 丹波篠山市立中央図書館「地域資料整理サポーター」の活動支援

地域資料整理サポーターは、中央図書館に所蔵される未利用の地域資料を整理し、そのことによって資史料の公開や活用につなげていくことを目的として、2013年度に結成された。2014年度からは「丹南町史編纂史料」を対象として、目録作成や手書き翻刻文のPC入力などを進めている。昨年度はサポーター有志による学会誌への活動報告や、『丹南町史』編纂担当者を変えた座談会、中央図書館での資史料展示、『史料編』の製本化など、特に成果の取りまとめという点で大きな前

進が見られた。

今年度は2020年6月21日、7月19日、9月20日、10月18日、11月22日の計5回にわたる「サポーター会議」という形で活動支援をおこなった。一方、新型コロナウイルス禍に見舞われたことで2021年1月17日に予定されていた第6回会議は延期された。また、昨年度までサポーター活動の支援をお願いしていた人文学研究科博士課程後期課程の田中昇一氏については、神戸大学の活動制限指針を踏まえて参加を控えていただくこととした。

サポーター側で自主的に継続されていた毎週水曜日の「自主活動日」についても、丹波篠山市の方針やそれを受けた中央図書館の対応により、緊急事態宣言の発出時期を中心として活動の見合わせなどがあった。

以上の状況を踏まえて、5回にわたるサポーター会議では目録作成や翻刻文入力など、平常時の活動における進捗状況や問題点を共有した。加えて、「丹南町史編纂史料」から主要なものを選択して輪読し、前年度に製本した『史料編』の校正に着手した。『史料編』の校正は翻刻文の確度を高め、来る丹波篠山市史の編纂・刊行にも資することを目的としている。このような考え方に基づいて、第2～5回の会議において以下の史料を輪読し、翻刻文の校正をおこなった（整理番号・表題・年月日の順に記載）。

- H8-33 乍恐奉願上口上覚（吹上村源左衛門の孝行褒賞につき）、寛政10年（1798）7月
- H30-33 乍恐奉願上候口上（住山村より茶間屋不法にかかる訴訟）、宝暦9年（1759）12月
- H16-36-1～2〔定免一件〕（大山宮村百姓より2度にわたる定免願）、安永2年（1773）3月10日
- D50-22「日記」（明治2年〔1869〕）より、篠山藩知藩事の家中儉約令を抜き出し解説

丹波篠山市史の編纂事業が本格的に始動したことを受け、この地域資料整理サポーター活動は市史編纂の一環として位置づけられる見通しである。次年度以降も地域資料整理サポーターによる

目録作成や翻刻文入力について支援を継続するとともに、今年度において緒に就いた「丹南町史編纂史料」の解説・校正を進めることで、新市史の編纂へ繋げていくことが今後の課題である。また、今後新出史料の発掘や受け入れが進むことも予想されるため、ボランティアとして市民の方々から積極的な参加をしていただけるような市史編纂のあり方についても検討を進めていきたい。

3. 「地域歴史遺産保全活用演習 A」の学内実施

文学部および人文学研究科では、これまで「地域歴史遺産保全活用演習」もしくは「地域歴史遺産保全〔企画〕演習」等の集中科目（通称：古文書合宿）を、夏（A）と冬（B）に分けて開講してきた。これらの演習は、史学専攻の学生や博物館学芸員をめざす学生が、近年保存・活用のニーズが高まっている地域歴史資料について、その基本的な整理作業能力の習得を目指すものである。2011年度からは、農学部・農学研究科の丹波篠山フィールドステーション等による協力や支援を得ながら、丹波篠山市において夏の古文書合宿（「地域歴史遺産保全活用演習 A」他）を2泊3日の日程で実施している。ところが、今年度は新型コロナウイルス禍により合宿形式の演習を見合わせ、日程を2020年9月9日（水）・10日（木）の2日間に縮小した上で、学内において整理実習をおこなうこととなった。なお、例年学内でおこなっている「事前指導」は、「うりぼーネット」や「Google ドライブ」を利用したオンデマンド型の配信により実施した。

整理対象としては、「篠山藩士鈴木次三郎家文書」を使用することとした。この文書群は、2015年度に科学研究費によりロードス書房から購入された丹波篠山市由来のもので、それ以来人文学研究科の古文書庫に収められていた。鈴木家は、篠山城の北堀端に居を構えた家禄100石の家で、19世紀前半の当主が側用人や御近習を勤めていたことが分かっている（上野栄二「篠山藩士給付禄高状と登城呼出状」、『丹波』9号、2007年）。整理実習は30名弱の受講者を4つの

班に分けて実施した。作業場所として、人文学研究科内の3つの教室を割り当てた。2日間を通じて作成できた歴史資料目録（紙ベース）は396点となり、一部は丹波篠山市で開催された「古文書入門講座」や2020年度後期の「日本史演習」（月曜日4限）でも活用されるなど、例年の整理合宿とはまた異なる展開がみられた。

4. 篠山市立中央公民館主催「古文書入門講座」への出講

古文書入門講座は丹波篠山市民を対象に、古文書の読み解き方をテーマとした初級者向けの講座で、丹波篠山市民センター2階の催事場を会場として年8回実施されている。市側では、中央公民館の安原稔氏と、河野克人氏が担当してくださっている。2017年度より、担当の松本が前任者（大阪市史料調査会の松本望氏）から引き継ぎを受けて、年2回の講座を担当してきたが、今年度より講師が枚方市立枚方宿鍵屋資料館の片山正彦氏と松本の2名となったため、4回ずつを分担する体制となった。なお、例年は8回のうち1回を「現地研修会」としているが、新型コロナウイルス禍の影響により通常講座に振り替える措置がとられた。

松本が担当したのは2020年8月3日、9月7日、10月5日、11月9日の第1回から第4回である（いずれも月曜日）。テーマは「古文書 最初の最初」、「泉村の年貢免定一数字と人名に慣れようー」、「園田家文書の座方史料」、「篠山藩士鈴木家に残された手紙」という構成で、教材となる史料として市立歴史美術館所蔵の「山田家文書」や「園田家文書（座方史料）」、神戸大学大学院人文学研究科所蔵の「篠山藩士鈴木次三郎家文書」を用いた。

なお、本講座は来年度より「入門」を外して「古文書講座」と改称の上、5回ずつの「初級編」と「中級編」に衣替えして実施される予定である。また、講座で使用した史料を集成してテキスト化する構想も検討されている。

5. 「部落史研究会ささやま」の活動支援

「部落史研究会ささやま」は、丹波篠山市域における藩制時代の差別政策を検証するため、2007年5月に発足した。現在は市の文化財保護審議会会長である今井進氏が代表を務め、日置ふれあい館を会場として毎月2回の研究会を実施してきた（毎月1回目に会員での解説、2回目に講師が加わって校正）。市側からも、人権推進課の後援を得ている（担当は東田良子氏）。人文学研究科地域連携センターとの関わりは、今井氏よりお声掛けを受けて松本が参加するようになった2018年4月からのことである。

丹波篠山市には、これまで多くの部落史研究に用いられてきた「西誓寺文書」が伝えられており、特筆すべきものとして寛政4年（1792）から安政5年（1858）にかけて書き継がれた「日々年代記」がある。また、「小川家文書」に含まれる「郡中歳代記」は、幕末まで篠山藩を支配した青山家が寛延元年（1748）に入部する以前の時期に遡る記録として、貴重なものである。2020年度にはこれらの全文解説を目的として、市の後援を得て「部落史研究委員会」が発足することとなり、「部落史研究会ささやま」の構成員が専門部会員として参画した。人文学研究科地域連携センターの松本は、アドバイザーとして委嘱を受けた。

この「部落史研究委員会」において、「部落史研究会ささやま」の研究会活動は専門部会の一環として位置づけられ、「小川家文書」の「郡中歳代記」の解説作業を進めた。しかしながら新型コロナウイルス禍の影響により、第1回の研究委員会と専門部会はいずれも7月にずれ込んだ。また、第3波の拡大を受け、2020年12月から専門部会の休会を余儀なくされている。

現在のところ、2020年度を含む3年間の計画で史料の解説作業を進め、史料集を取りまとめるとともに、市民向け冊子の刊行を目指している。

6. NPO 法人 SHUKUBA 主催「古文書講座」への協力

2019年7月に設立されたNPO 法人 SHUKUBA

は、2016年3月に閉校した旧福住小学校を拠点にカフェの運営や創作活動の支援などをおこないながら、旧本陣というアイデンティティを持つ福住地域の魅力を発信している。2020年度から、地域に眠る歴史資料を保全し、活用していくことを目的として「古文書講座」がスタートすることとなり、人文学研究科地域連携センターの松本へ講師の依頼があった。

講座は2020年9月2日(水)、11月3日(火・祝)、11月4日(水)の計3回実施され、それぞれ「樋口家文書からわかる、昔の福住の暮らし」、「西野々地区フィールドワーク」、「江戸時代の西野々村掟と年貢」をテーマとした。特に第1回の講座で取り上げた「樋口家文書」は、篠山市西町(当時)において人文学研究科特命講師の板垣貴志氏により2015年に調査されたもので、農学研究科の丹波篠山フィールドステーションにおける仮置き期間を経て、2019年から市立中央図書館で保管している。第1回の古文書講座が新聞報道されたことで、その記事をご覧になった旧所蔵者の樋口達兵衛氏が第3回の講座へお越しくださるといふ出来事があった。樋口氏からは史料の来歴などについて改めてお話を伺うことができ、今後の連携事業や市史編纂事業の展開を見据える上で有意義な機会が設けられた。

今後の古文書講座は、2021年1月30日(土)と2月20日(土)に「地域歴史編」として、立命館大学文学部の中西健治氏による「如来寺の縁起について」、ディスカバーささやまグループの森田栄氏による「西園寺公望公の山陰道鎮撫隊～福住宿について～」が予定されている。

(文責・松本充弘)

明石市との連携事業

1. 明石藩関連資料調査・公開業務委託

明石市立文化博物館では、2013年より同館所蔵の黒田家文書および明石藩関係史料の整理・分析成果の公開のため、毎年企画展「明石藩の世界」を開催している。今年度は、企画展「明石藩の世界Ⅷ—米と酒づくり」(会期：2020年9月12日～10月18日)を、明石市、明石市立文化博物館、本学人文学研究科地域連携センターが主催した。展示製作にあたっては、明石市立文化博物館とともに、加藤明恵が構成立案、史料調査、パネル・キャプション製作に携わった。また、展示図録への解説記事・論考「近世後期～維新期のト部八兵衛家の酒造経営」を執筆した。

展示関連企画として、9月20日・10月4日に明石市文化振興課の加納亜由子氏と加藤が展示解説を行い、10月3日に明石市立文化博物館において講演会を開催した(加藤明恵「江戸時代における明石の酒造業と経営」、加納亜由子「明石藩士がみた藩領の村々と米・年貢」)。今年度は新型コロナウイルスの影響により定員を例年の約半分の40人として開催した。

2019年度より調査を行っている愛知県公文書館所蔵・明石藩「日記」は、今年度より愛知県公文書館のウェブサイト上で閲覧が可能となった。今年度は天保9年日記から内容調査を進めている。

2. 明石市における地域資料の調査

(1) 地域資料調査

本調査は2015年度より、明石市市民生活局文化・スポーツ室文化振興課市史編さん室と共同で継続している。今年度は、主に①ト部和彦家文書(大久保町西島)、②西島水利組合文書(同上)、③間島書店寄贈文書の調査を行った。

① ト部和彦家文書調査

2018年度よりト部家より明石市史編さん室に文書を借用し調査を進めた第1回借用分史約1350点は2019年度に目録作成・写真撮影等がほぼ終了し、今年度は昨年度に引き続き、市史編さん室事務局に以前より借用されていた段ボール2箱・行李1箱の目録作成・写真撮影を進め、作

業を終了した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、本学人文学研究科の学生・大学院生の協力を得ての調査が困難となったが、明石市立文化博物館・本学人文学研究科学術研究員の義根益美氏の協力を得て、2020年6月24日、7月15日・29日、8月12日・19日、9月16日・23日に行った（計7回）。

また、第1回借用分史料は、数名の大学院生と義根氏の協力を得て2020年12月12日に卜部家に返却するとともに、第2回目の現状記録調査、史料の搬出・借用を行った。

② 西島水利組合文書調査

本文書については、2020年7月22日、8月26日、9月5日の3回に加え、市史編さん室が単独で7月25日に調査を実施し、目録作成・写真撮影を行った。目録は全点の採録が終了した。

目録作成の終了を受け、2020年10月24日に西島地区コミュニティー会館において、西島水利組合資料調査報告会を開催した（主催：西島農会、西島水利組合、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、明石市文化振興課）。西島水利組合に史料目録を贈呈し、森本眞一氏（明石市誌編さん委員）が「寛政池に関する新たな知見と課題」、加藤明恵が「西島水利組合文書の概要と水利関係算用帳の紹介」、義根益美氏（本学学術研究員）「江戸時代の西島村と寛政池の築造」と題して報告した。組合員・地域住民の参加を得、質疑応答・意見交換も活発に行われ盛会であった。

③ 間島一雄書店寄贈文書調査

本文書は、間島一雄書店が明石市史編さん室に寄贈した文書群で、赤穂塩田関係史料、播州美囊郡西下村関係史料、播州加古郡一色村関係史料など、複数の出所からなる。地域史料調査ではこのうち、美囊郡西下村関係史料・加古郡一色村関係史料（段ボール1箱）の目録作成を行ない、採録作業を終了した。調査は義根益美氏の協力を得て、2020年10月18日、11月7日・20日、12月25日、2021年1月20日・30日、2月6日に行った（7回）

(2) 古代播磨の歴史文化遺産調査

2019年度から古代部会と共同し、古代を中心とする播磨地域の歴史文化遺産の調査を開始した。2019年度から引き続き、高橋明裕氏が本学人文学研究科の非常勤講師として調査・研究を進めている。今年度は、『群書類従』、『続群書類従』、『続々群書類従』から、明石郡・美囊郡・印南郡・加古郡に関係する古代・中世の史料を抜き出して史料収集を進めた。

(3) 明石市史編さん委員会

2020年8月29日、12月13日に明石市立文化博物館において開催された明石市史編さん委員会へ、地域資料調査の担当者として出席した。

3. 横河家文書調査・公開業務

本事業は2016年度に開始したが、昨年度は一時中断し、今年度2019年8月より調査を再開した。横河家は明石市東二見にルーツを持つ家であり、同家より明石市に寄贈された2,982点の史料の調査を進めている。今年度は、箱5の文書目録作成を進め、2021年2月・3月に写真撮影を行う予定としている。

いまだ未調査分が多いため、次年度以降も継続して調査を進める予定である。

（文責・加藤明恵）

たつの市との連携事業

2006年に発足した神戸大学近世地域史研究会は、毎月1回日曜日の午後に開催している市民を中心とする研究会で、今年度で15年目を迎えた。会員は阪神地域・播磨地域在住の約15名で、江戸時代の地域史料を翻刻している。報告担当者は毎月数名で、割り振られた担当部分の翻刻、語句や関連文献などを発表する。現在はたつの市龍野町所在善龍寺所蔵文書のうち幕末の寺院留「御本殿御地頭御触記録」の解説に取り組んでいる。学習の振り返りを目的とする「会報」は2021年

2月14日付け最新号が第28号となる。

今年度は新型コロナウイルス感染問題によってオンライン（zoom使用）での開催を余儀なくされた。対面を希望する声もあったが実現できないまま新年度を迎えることになろう。当初、会員の中には慣れないオンライン操作に戸惑う様子があったため個別に練習の機会を設けた。また、カメラ・マイクを追加導入した会員もあった。現在は、会員の協力によって円滑にオンライン例会を実施しており、移動不要に対する安心感や辞書など重量のあるものを持ち運ぶ必要なく自宅で学習できる利便性などによってオンラインでの開催を好意的に受け止める会員は少なくない。一方で、通信環境の整ったパソコン使用者の参加が前提となってしまう、諸事情により使用しない方が参加できないことは大きな課題である。大学での活動としての研究会であることに意義を感じる会員が多い中、現在の状況は大学が果たす役割や研究会の目的を改めて考える機会となった。

そういう中で開催された2020年12月19日（土）「第19回 歴史文化をめぐる地域連携協議会」では、当会に関する報告の機会を得た。「第3部 コロナ禍の中で考える—オンラインを利用した活動」に会員の志賀蓮子氏と筆者が登壇し、沿革や活動内容を紹介した。志賀氏は発足当初から参加しており、例会・フィールドワークの思い出やオンライン例会の感想などを報告した。また、2021年2月20・21日開催「第7回全国史料ネット研究交流集会」の2日目「COVID-19下における史料保全活動」においてオンラインでの例会実施を中心とした当会の活動について報告した。

（文責・室山京子）

姫路市香寺町での連携事業

2021年3月11日に香寺公民館において開催される、香寺歴史研究会の報告会「ふるさとマッ

プを描く—昭和の記憶を残す—」において、井上舞が、「地図に「私たちの歴史」を描く」と題した講演を行う予定である。

（文責・井上舞）

佐用町との連携事業

本年度は事業として実施なし。

（文責・松下正和）

福崎町との連携事業

福崎町とは2009年度より共同研究を開始した。2017年度からは「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし」と「大庄屋三木家住宅文献資料調査」（2017年度は民俗資料調査）という2つの共同研究に取り組んでいる。具体的な活動については、以下の通りである。

1. 共同研究「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし」

（1）松岡家関連資料調査

本年度は松岡家関連の書簡葉書資料の翻刻を引き続き行った。また、2021年は松岡五兄弟の末弟で、日本画家の松岡映丘生誕140年にあたるため、福崎町立柳田國男・松岡家記念館で記念展の開催が企画されている。この準備のため、前年度より資料調査を進めてきたが、コロナ禍のため、遠方の資料については調査することができなかった。次年度の展示に向けて、引き続き調査を行っていききたい。

（2）地域所在資料の調査・整理

① 中島区有文書の整理・調査

福崎町南田原中島に所蔵されている区有文書について、中島区長からの依頼を受け、2018年度

より毎月1回第4水曜日に、地域住民とともに整理・調査を進めてきた。

2019年12月に全点の目録作成が完了し、以降は資料を中性紙封筒に移し替える作業と、これまでの整理・調査を周知するための展示会の準備を進めてきた。当初、展示会は本年度5月に開催する予定であったが、緊急事態宣言期間中となったため、延期となった。その後、7月に改めて展示会を開催した。週末を利用した3日間の展示会ではあったが、毎日40名近い来場者があり、盛況であった。また7月23日には、井上舞が「ちょっと昔の中島のくらし」と題した講演を行った。

② 庄地区円照寺文書の調査

2019年度、福崎町八千種庄地区に所在する円照寺の檀家総代より、寺の改修中に見つかった古文書について相談を受けた。資料点数が少なかつたため、事業内で整理作業を行うことにし、長谷川幸子（福崎町教育委員会）、石橋知之（神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程）の両名が資料の撮影・目録作成を行った。

本年度、寺の改修が終わった段階で、古文書を返却の上、檀家の方や地域住民を対象にした説明会を実施する予定であったが、コロナ禍のため中止となり、ひとまず古文書のみ返却した。

（3）『広報ふくさき』での成果還元

調査成果を町民に広く知ってもらうべく、連携事業開始時より『広報ふくさき』誌上に調査成果を寄稿している。本年度前半は、柳田國男・松岡家記念館の館蔵資料の紹介、および昨年度発見された松岡小鶴書簡について寄稿した。2021年1月より、松岡映丘をテーマに寄稿中である。本年度の掲載月は6月～8月、10月～1月、3月であった。

（4）事業報告書の作成

今年度事業についてまとめた報告書を、3月に発行予定である。

2. 兵庫県指定文化財 三木家住宅文献資料調査

（1）文献資料調査

2017年度からの継続事業で、大庄屋三木家の文献資料調査を行っている。具体的な調査内容は、①既調査資料の所在確認、②未調査資料の目録作成である。①については、2019年度に調査を完了した。本年度は②を進める予定であったが、コロナ禍のため、例年学部生・院生らと実施している調査合宿ができず、目録作成を進めることはできなかった。次年度以降は、感染症対策に留意しながら調査を再開したい。

また、今後の資料活用に資するべく、室山京子（神戸大学大学院人文学研究科学術研究員／神戸大学非常勤講師（研））と石橋知之（神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程）が、資料の翻刻等に取り組んだ。この成果は「大庄屋三木家資料集1」として3月に発行予定である。

（2）三木家襖下貼り文書剥がし体験会

2019年10月より、三木家住宅のうち主屋をのぞく建物について、株式会社PAGEが指定管理者となり、宿泊施設や飲食施設に改修されることになった。この工事の際、襖や壁から大量の下張り文書が発見された。2019年11月にこれらの下張り文書を剥がしてまくりにする作業を行った。

本年度、三木家文書について広く地域住民に知ってもらうべく、11月1日、12月10日に福崎町立神崎郡歴史民俗資料館で、11月22日に福崎町文化センターにて、襖の下張り文書体験会を開催した。福崎町の連携事業としては、初めての試みであったが、参加者からは「楽しかった」「内容も読んでみたい」との感想があり、概ね好評であった。これを受けて、次年度は開催回数を増やし、また内容判読の会も設ける予定である。

（3）調査成果の還元

調査成果を広く知ってもらうべく、三木家住宅において特別展示大庄屋三木家住宅特別展「江戸紀行―三木通明、江戸へ行く―」会期：10月31日～12月6日、於大庄屋三木家住宅）の開催に協力した。また関連行事として、11月24日に開催された三木家入門講座④において、室山京子が「三木通明と江戸の旅」と題する講演を行った。

(4) 三木家墓石調査

三木家の墓所は、福崎町内にある妙徳山神積寺の悟真院内に2箇所に分かれてあったが、本年度墓所の整理が行われ、一部の墓石が撤去されることになった。このため、墓石の調査を実施することになった。現地での調査は福崎町教育委員会が行い、現状記録を作成し、拓本を取った。また、墓石の銘文について、拓本をもとに室山京子が翻刻に取り組んだ。本調査の成果は「大庄屋三木家資料集2」として3月に発行予定である。

(5) 事業報告書の作成

今年度事業についてまとめた報告書を、3月に発行予定である。

(文責・井上舞)

猪名川町における連携活動

(1) 古文書学習会への協力

有志による自主運営で開催している「猪名川の古文書を楽しむ会」(会員)同会の例会を今年度も、第3土曜日をレギュラーに実施してきた。(4月から8月は新型コロナウイルスの影響により休会)

(文責・木村修二)

2. 猪名川町文化財審議委員会

2018年度より、松下正和(地域連携推進室特命准教授)が、猪名川町文化財審議委員に就任している。本年度は3月23日に第1回文化財審議委員会が開催の予定である。

(文責・松下正和)

大学協定に基づく大分県中津市との連携事業

大分県中津市は神戸大学の前身である神戸高等商業学校初代校長である水島鍊也の生誕の地であり、神戸大学のゆかりの地である。2014年に中津市で開催された水島校長生誕150年記念講演会をきっかけに、同市との交流がはじまった。2015年7月には、中津市監修による『マンガ明治・大正期の教育者 水島鍊也』(梓書院)が出版され、本学文書史料室が資料提供を行うなど関係が築かれてきた。

2016年度に締結された神戸大学と大分県中津市との包括的連携協定の一環として、歴史文化領域では、昨年度中津市歴史博物館(仮称)活用推進委員会の委員長に奥村弘が、副委員長に松下正和(地域連携推進室特命准教授)が就任した(同会は2018年度で廃止)。また、近世展示アドバイザーとして、木村修二が囑託された。2019年度に中津市歴史博物館協議会が同館にて開催され、同会会長に奥村が、副会長に松下が選出され、開館した中津市歴史博物館の開館記念式典に、本学からは奥村・松下両名が参加した。

本年度も継続して事業を展開していく予定であったが、コロナ禍のため、例年実施している中津市内高校への出前講座は中止となった。これについては次年度以降再調整の予定である。また、中津市歴史博物館協議会も開催されなかった。

(文責・松下正和)